

平成30年7月25日

東松島市議会議長 阿部 勝徳 様

(会派名) 清新会

代表者氏名 滝 健一 

会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、研修費、広報費、広聴費、要望・陳情活動費、会議費

2 活動名称: 清新会視察研修

3 実施期日: 6月26日~6月28日

4 活動成果: 北海道奥尻町と恵庭市を視察研修予定の
出発(だが奥尻町の震災25年後の状況等により、
2は俄然天候不順のため島に渡ることが出来
なかった。

「恵庭市の読書に子どもたち」につき充分勉強が
できなかった。今後本市でも大卒者等に対することが可能

5 添付書類: 2通り 本市の図書館でこの読書環境の向上に
役立ったことができたと思う。

→ 会派全員の視察研修報告書



子どもから大人まで"たのめが"等しく読書活動に親しむことがきつう
読書の環境づくりに力を注ぎ、市民とともに、地域ぐるみで"読書のまちづくり"
を推進している。

この読書活動には多くのボランティアの方が参加し、市民と市が一体となった
活動により、豊かな読書環境や人と地域をつなかりが生まれている。

恵庭市では、平成12年全国ではじめた「ブックスタート」事業
(9・10ヶ月児対象)を試行。翌年4月から完全実施した。
本にふれあうきっかけの少なからぬ親子に本をプレゼントし、
子どもたちにと、本が身近になった。

読み聞かせのボランティアも増え、H19年には全部の学校で
朝読書を実施。これにより学力向上へと結びついている。これには
ないが、1人が年間借りる冊数が全国平均の2倍で"全国一位"。

中には図書館に泊り、一晩中本を読みたいという人も表れ
一晩図書館を解放した事もあったという
読書は、言葉と知識を学ぶ、感性を磨く。創造力や
コミュニケーション力を養い、生きる力を育む。

年齢に対応した読書活動の推進を図り、学校図書を中心に
読書環境、学習環境の充実を図っている。

恵庭市では、子どもの頃から本にふれ、親もふつうに本を読み聞かせ
をし、日常的に読書を楽しむを促し、楽しい読書習慣を身につけて
いる。新聞は読むが本は買っていない。図書館にいくと借りたりする事は
ほとんどない。お家の孫はよく本を買い読む。

お家の文学にも子供が読む。下の娘も本を買い毎日読んでいます。
何かおもしろいものがあろうと思っただけおのれがスミズミまで新聞を讀
むのと同じく習慣らしい。

特におうちでもひとりでも多くの子ども達が本のおもしろさを知り
身近に更に親しみやすい図書館や学校図書の充実を図りたい。現
このことが何年も先の学力向上へとつながるかは..... 現

清新会 視察・研修報告書

平成30年7月25日

長谷川 博

期 間:平成30年6月26日

研修地:北海道恵庭市

【恵庭市の概要】

北海道恵庭市は、明治初期に開拓が始まり、明治19年には山口県岩国・和木地方からの集団移住で入植が本格化する。位置的には、札幌市と新千歳空港のほぼ中間に所在し、恵まれた交通アクセスと穏やかな気候風土のまちで、早くから住宅地整備が進められると共に公共下水道や大学・専門学校、工業団地などの都市基盤整備が図られ、着実に人口が増えているまち。

昭和45年11月に市制施行し、最近は市民主導による花のまちづくりが盛んで「ガーデニングのまち」として全国的に知られている。人口は約6万9500人、世帯数は約3万8200世帯、面積は294.65平方km。平成30年度一般会計予算は約266億4千万円、財政力指数は0.567となっている。

【研修事項】 読書によるまちづくり

・恵庭市図書館・本館2階にて、市教育委員会 読書推進課長・黒氏優子氏による説明を聴取。

『読書は、言葉や知識を学び、感性を磨き、想像力やコミュニケーション力を養い生きる力を育む』これが「本の力」で、図書館は市民の生涯にわたる読書活動を支援する役割があると冒頭に話された。

・市立図書館は平成12年、子どもの読書離れ対策として、文部省委嘱事業として「子どもの心を育てる読書活動推進事業」に取り組み、手始めに「ブックスタート」事業を全国に先駆けて試行し、翌年4月から完全実施に至る。「ブックスタート」とは赤ちゃんに絵本を手渡すことで、恵庭市では9・10ヶ月児を対象に、検診時に絵本2冊を保護者・子どもにプレゼントしている。このことにより読み聞かせなど、絵本を通して親子の絆が深まる効果があるとし、更に、2007年4月には「ブックスタートプラス」事業を実施、対象を1歳6ヶ月児にも広げて絵本を選ばせて渡している。

・図書館施設は、市立図書館・本館の他に、島松分館と恵庭分館があり、他には2つの生涯学習施設内に「かしわブックステーション」と「黄金ブックステーション」の2カ所を開設している。

・学校図書館では市内小学校8校、及び中学校5校全てに市費で学校司書を配置しており、市立図書館と学校図書館間の配本システムを確立して、学校図書館から市立図書館の本の検索・予約ができたり、市立図書館から配本車で本の配送・回収も行っている。また、全校一斉に、全ての小・中学校で「朝読書」が行われており、小学校ではボランティアなどによる読み聞かせ活動も行われている。

・平成25年4月には、地域に広まった豊かな読書環境を次の世代に引き継ぐための道しるべとなるよう『恵庭市人とまちを育む読書条例』を制定・施行している。条例制定は全国的にも珍しく(全国4例目に)、市民や家庭、地域の取り組み、学校や市の努めや役割をそれぞれ明記している。

さらに同年10月には、「いつでも・どこでも・だれでもが本と出会えるまち」とのコンセプトを具現化するため、『恵庭 まちじゅう 図書館』事業を開始する。この事業は市内のお店、カフェ、オフィスなどのちょっとしたスペースに経営者・スタッフのお気に入りの本を展示し、訪れた人に自由に読んでもらえる『図書館』を設置して本と出会い、人とふれあう交流型の「図書館」の役割を果たしている。勿論、一般のお店ですので、営業や仕事の妨げにならないような配慮は当然の事。市では参加店を随時募集しており、現時点で市内には48ヶ所の「図書館」が登録され、中には銀行や美容室、郵便局も参加して、文字通り「まちじゅう 図書館」を実現している。

また、市立図書館はもとより、様々な読書活動の取り組みが評価されている。市内の各小中学校の読書活動が評価されて年度ごとに文科省から表彰を受け、さらには、読み聞かせの図書館ボランティア団体等も同様に表彰を受けている。

NHK・TVが『本の力でつくるまち』のタイトルで「恵庭まちじゅう図書館」の取り組みを取材・全国放送されたことで、一躍有名になっている。

・恵庭市図書館・本館は敷地面積約9500平方メートル、鉄筋コンクリート造一部2階建て、床面積2800平方メートルで、平成2年11月着工、平成7年7月開館、総事業費は約17億2千万円。蔵書数は開架7万冊、閉架7万冊で合計14万冊を収容。一日当たりの入館者数は976名で、市民一人当たり貸出冊数は9.39冊。平成29年4月から指定管理者制度を導入し、指定管理者を「(株)図書館流通センター」として図書館運営を行っている。

【所感】

「まちづくりは人づくり」と言われるごとく、市民力を高める事が重要との考えはうなずけるものだ。そうした観点から、幼少期よりブックスタートで「本」になじませ、読書の習慣を身につけさせることは何より有益なことと考える。特に昨今は、ネット社会で子どもも大人も活字離れが加速し、電子媒体に依存する世の中になってしまっている。もとより高度に発達した技術を活用することは必要不可欠である。しかし、少なくとも幼少期、児童・生徒には、自分の頭で考える、想像力を養うなどの基礎的な学習習慣を身につける事も必要なことだ。そのためには、子ども達が身近に「本」とふれあえる環境の整備は欠くことができない。ブックスタートはもとより、学校図書の実充、司書の配置など、恵庭市の取り組みはまさに特筆すべきものとする。図書の貸出冊数に制限はないとしているものの、通常は10冊前後で絵本の貸出が多いとしており、子育て世帯の利用者が多いことを物語るとして、実に素晴らしい姿だと考える。一方、市民にとっても「まちじゅう図書館」は「本と出会い人とふれあう場」として、まちづくり・コミュニティ形成の役割も身近に果たしていると考えられる。このような例は全国でも珍しい事例と考える。

愚問と知りつつも、恥を忍んで質疑応答の際に「読書と小・中学校生徒の学力向上」について尋ねると、『その関連性は認められないが、始業前の「朝読書」により授業への集中力が高まる傾向はある』との説明だった。もとより、読書の習慣が直接的に成績・点数につながるとは考えにくい、少なくとも幼少期・学童期における基礎的な人間形成において有益であることは信じている。此度の研修は、本の持つ力、とりわけ幼少期における読書習慣の重要性を再認識することとなった実に有意義な研修であった。

【付属資料・写真】



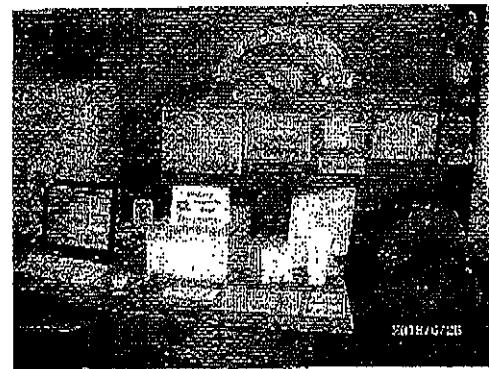
【1階の開架スペース】



【照明は書架にも設置】



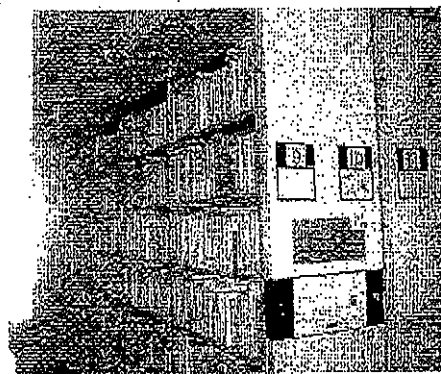
【キッズの開架スペース】



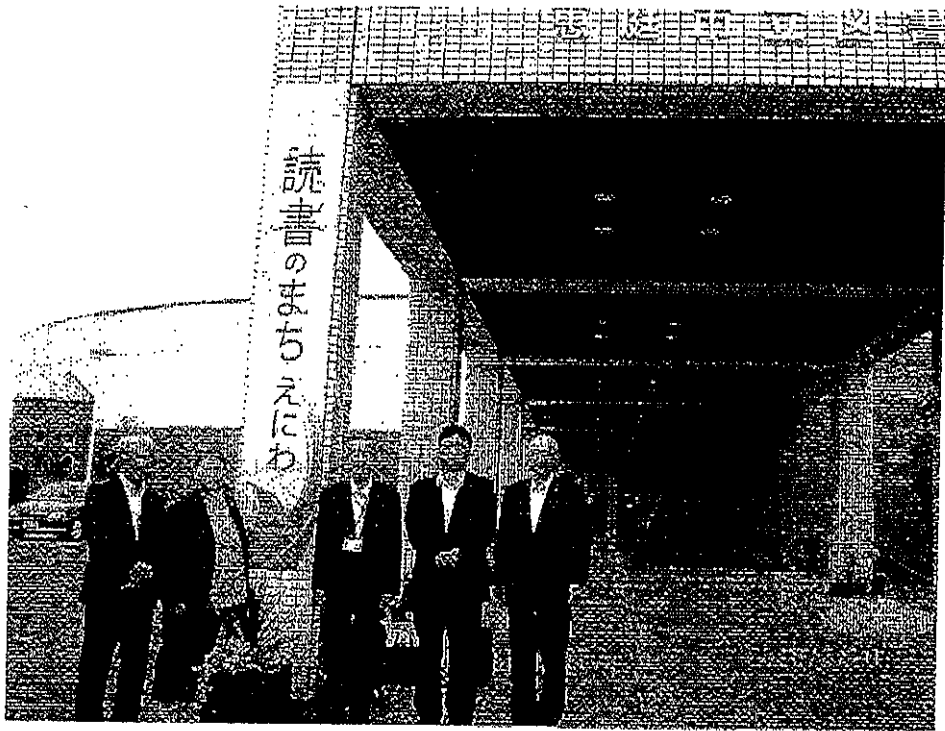
【児童書の貸出カウンター】



【読書コーナーを説明する担当者】



【2階の開架書庫に約7万冊を蔵書】



【図書館エントランスにて、いたるところにフラワースタンドが設置されている】

清新会会派視察について

熊谷 昌崇

恵庭市人とまちを育む読書条例について

恵庭市は北海道の札幌市の隣に位置している。図書館の建設は北海道で最も遅く、市民から切望されて建設したものである。昨今、スマートフォンやパソコンの普及による本離れが顕著であるが、恵庭市はあえて、アナログな本を使用した読書、読み聞かせを推奨し、読書条例を全国で4例目となる平成25年に制定している。この条例は【市民の取組、家庭の取組、地域の取組、学校の取組、市の取組】が明記されており、子供から大人まで、誰もが等しく読書活動に親しむ事が出来るよう、読書の環境づくりに力を注ぎ、市民とともに地域ぐるみで読書のまちづくりを推進していく事を目的としている。

恵庭市を訪問して【ブックスタート事業】という言葉は初めて認識をした。この事業は9か月から10か月児を対象に絵本を2冊配布し、読み聞かせの有用性を周知し、子供の情操教育に寄与しているものである。又、特筆すべきは中学校の取組として、全校一斉の朝読書（10～15分）を行っていることだと思う。その結果、授業に集中しやすい、落ち着きがあるという様な効果が出ているとの事。

市議会議員を何期か続けてきた私は、すぐにこれらの読み聞かせ等の効果により、全国学力テスト等における平均は如何程なのかという様な疑問を持ってしまいが、この読書条例は、読書活動を通じてふるさとを愛する人を育むとともに、人と地域のつながりを深め、心豊かで思いやりにあふれ、活力あるまちづくりを目指し、市民、家庭、地域、学校及び市が進めていく取組を明らかにすることを目的とします。と第1条に明記されている。とかく、学力の全国平均の向上ばかりを思いつていることは反省すべきと思う。

読書を通じて、例えば、読み聞かせや恵庭まちじゅう図書館といったような市内の商店の中にその商店が独自に選んだ本を置き、ちょっとした図書館を作り、市民と交流していくという様な取り組みは地域の活性化にもつながると思う。東松島市においても、ブックスタート事業等の取組は検討すべきものと思われる。

清新会視察研修報告書

阿部勝徳

「読書によるまちづくり」

平成 30 年 6 月 26 日 恵庭市

恵庭市は、札幌市と新千歳空港の中間に位置する人口約 7 万人、面積約 300 km²のまちである。総合計画の将来都市像に「花・水・緑人がつながり、夢ふくらむまちえにわ」を掲げ、自然環境、社会環境を活かし、水、緑、花に溢れ安心安全に暮らせるコンパクトな生活都市を目指している。

読書によるまちづくりについては、子供たちが図書館に来なくなったことからシンポジウムを開きその理由や、新図書館建設に向けた市民の意見や要望を聞き、平成 4 年 7 月に新図書館をオープンした。

学校図書館に昭和の本しかなかったことから、学校図書館の充実を図り各学校に司書を配置した。また、学校図書館と市立図書館の一元化を図っている。平成 12 年全国に先駆けて「ブックスタート事業」(9, 10 カ月児対象)を開始し、乳幼児から中学生まで切れ目ない支援をすることとなった。

平成 19 年 4 月には「ブックスタートプラス事業」(1 歳 6 カ月児対象)の実施、6 月にはインターネット予約サービスや学校図書館とのオンライン連携を開始している。

平成 25 年 4 月に、読書によるまちづくりをより充実するため「恵庭市人とまちを育む読書条例」を施行。同年には「恵庭まちじゅう図書館事業」を開始し、市内の食堂、カフェ、銀行、病院、郵便局、事業所、48 か所に独自の図書館を開設、いつでも、どこでも、誰でもが本と出会えるまちづくりをしている。また、同年には高齢者への宅配サービスを開始している。

○所見

恵庭市の読書によるまちづくり、様々な特色ある取り組みは乳幼児から高齢者まで市民の本に親しむ機会を大きく増やしており、市立図書館の市民一人当たりの貸出冊数は全国平均を大きく上回っている。本市の図書館も様々な取り組みを実施しているが、恵庭市の取り組みを参考に更に市民の本に親しむ環境整備ができればと思う。

清新会視察研修報告書

平成30年7月25日

滝 健一

恵庭市の読書によるまちづくり

北海道恵庭市は札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置する、人口約6万9500人、面積約295km²、一般会計予算約266億44万円のまちとなっている。

恵庭市図書館で市教育委員会読書推進課長説明を聴取、とても有意義であった。読書は多様な知識が獲得され、感性を豊かにし、想像力を旺盛にし、生きる力をも育むので図書館は住民の読書活動を支え、拡大して立場にあるという。

図書館は平成12年、全国に先駆けに子どもの読書離れ対策として、ブックスタート事業を開始し乳幼児から中学生まで、創意工夫を凝らして色々な支援活動をしている。

平成19年4月には赤ちゃんに絵本を手渡すブックスタート事業を実施、6月にはインターネット予約サービスを開始している。

平成25年4月には、すぐれた読書環境の更なる充実のため「恵庭市人とまちを育む読書条例」を制定、施行、同年10月には、112軒どこでも、誰でもが本に出会えるまちとして恵庭まちびゅう図書館事業を開始、市内の各店舗やちよつとしたスペースに本を展示、訪れた人に自由に読書してもらえるようにまじした。

この研修は、本市の図書館事業も恵庭市のやり方を参考にし、更なる読書環境を向上させるための工夫を思うところがある。